



2月9日(土)、北海道大成高等学校閉校記念式典が大成農漁村センターで開かれ、在校生である4名の生徒と教職員、同窓生や、地域住民ら264人が出席し、定時制教育時代からの長い歴史に別れを告げました。平成18年度から大成中学校生徒へと受け継がれた「久遠神楽」がはじまりと皆、万感の思いで見守り、最後の卒業生となる生徒がこの日のために練習を重ねた、郷土芸能の浮島竜神太鼓の披露ではその力強さに会場には笑顔があふれました。

生徒会長を務めた杉村茉莉さんは少ない人数でも協力すれば大きなことができること、地域に支えられてきたことへの深い感謝を示し「ありがとう大成高校」と涙ながらに惜別の言葉を述べました。

思い返せば今から25年前、この場所で大成高等学校定時制課程閉課式が行われ、当時は町民の誰もが将来を期待し希望に溢れていました。

しかし、少子化の波が押し



寄せ閉校の運びとなりましたが、時代の変遷と共に常に地域と歩み、学ぶという姿勢と心を育んだ大成高等学校は、この先かわらずに人々の心に残ることでしよう。

式典の最後には参加者全員で校歌を斉唱、数々の思い出が刻まれた校舎との別れを惜しみ、輝かしい59年間の歴史に終止符がうたれました。

編集後記

▼今回は、大成高校の閉校を特集してみました。掲載にあたってインタビュアーに快くご協力頂いた皆さん、閉校記念式典を控えて多忙な中、写真や資料の提供など全面的にご協力頂いた大成高校の関係者の皆さんどうもありがとうございました。▼2ページで紹介した、大成高校の名称の変遷。高校の沿革によると、昭和26年に北海道立北海道北檜山高等学校久遠分校、昭和27年には北海道立北海道東瀬棚高等学校久遠分校と名称が変わっていましたが、北檜山高等学校から東瀬棚高等学校に変わっているのを見て順番が逆ではないかと思いましたが、北檜山町史などを調べてみました。その結果、間違いのないことを確認し、安心して掲載しました。何か疑問に思ったことがあれば頼りになるのは「町史」ということを改めて実感。大成高校をはじめ、各小中学校についても、各町史に詳しく載っています。町史は役場・両総合支所でお得なセット販売もしていますので、是非ご利用ください。▼「2007年の日本の広告費」によるとネット広告費が大きく伸び、雑誌を抜いて、テレビ、新聞に次ぐ規模となったそうです。せたな町でも昨年度から広報誌とホームページで有料広告を行い、昨年度は、広報誌206、5000円、ホームページ170、0000円の掲載を頂き、今年度も総額では広報誌の方が多い見通しです。広告については随時募集していますので、お気軽にご利用頂きますようお願いいたします。(乾)